



知多市シティプロモーション基本方針



平成28年3月

知 多 市

目 次

- 1 シティプロモーションとは・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 市の現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 3 シティプロモーション検討委員会での検討内容・・・・・・ 8
- 4 シティプロモーションの必要性・方向性・・・・・・・・・・11
- 5 シティプロモーションの基本方針・・・・・・・・・・・・12

1 シティプロモーションとは

昨今、シティプロモーションの重要性が注目されています。日本の総人口は、少子化の影響等から2008(H20)年の約1億2,800万人をピークに減少に転じています。人口減少社会を迎え、地域間競争が進む中、多くの自治体では、住民の地域愛の向上や定住促進、来訪者等の交流人口の拡大等につなげようと、「地域資源の発掘」「自治体の魅力発信」等の取組を進めています。このシティプロモーションとは、どのような取組なのでしょうか？

始めに、本基本方針におけるシティプロモーションの目的と効果について紹介します。

(1) シティプロモーションの目的

本基本方針におけるシティプロモーションの目的は以下のとおりです。

「市の魅力を市内外に発信することで、市民の郷土愛を醸成するとともに、その波及効果で市のイメージ・知名度の向上、定住促進、交流人口の増加などを目指す」



エッセンスだけ抽出すると

手 段：市の魅力を市内外に発信する

効 果：市民の郷土愛の醸成

波及効果：○市のイメージ・知名度の向上

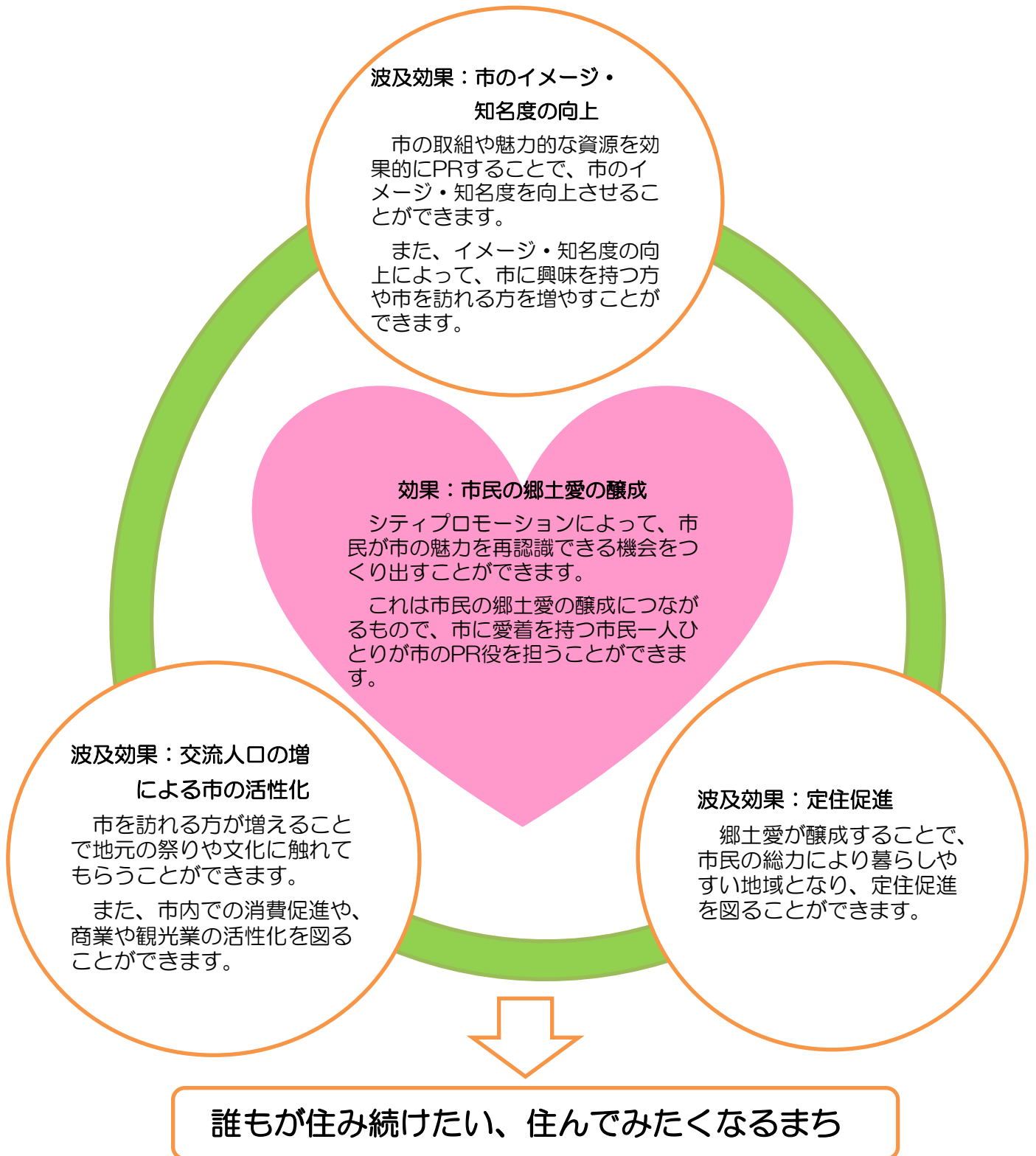
○定住促進

○交流人口の増による市の活性化

となります。

(2) シティプロモーションの効果

シティプロモーションを行うに当たり、期待される効果について具体的に説明します。シティプロモーションの効果としては「市民の郷土愛の醸成」を中心に3つの波及効果が生まれると考えています。



(P 1 2 参照)

2 市の現状

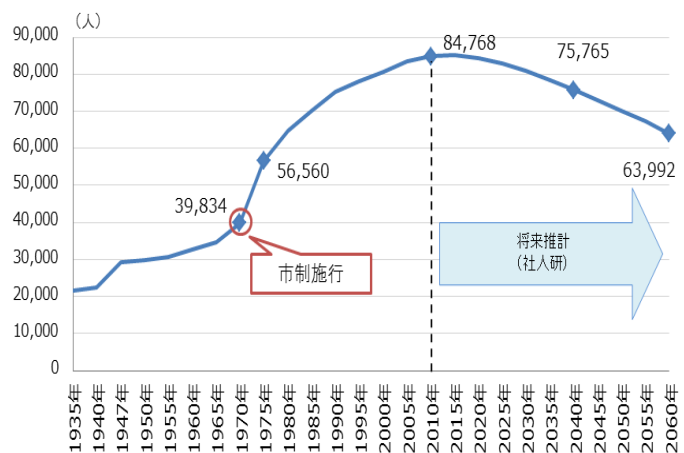
市が2015（H27）年度に策定した市の今後の人口動向や将来展望をまとめた「知多市人口ビジョン」の中から特徴的な指標を抜粋し、現在の市が置かれている状況を確認します。

(1) 総人口の推移

国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）の中位推計¹によると、市の人口は、2015（H27）年をピークとして減少に転じ、2040（H52）年には約7万6,000人に減少する推計となっています。さらに、国から提供された「将来人口推計ワークシート」を用いて社人研の中位推計に準拠して推計すると、2060（H72）年には約6万4,000人にまで減少する見込みです。（図表1）

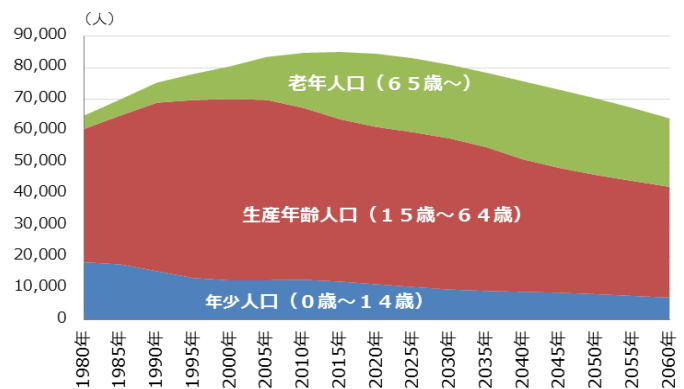
また、2060（H72）年には、市全体の34.0%が65歳以上となり、2010（H22）年の20.6%から10ポイント以上増加する推計となっています。（図表2）

総人口の推移（図表1）



出典：2010年までは総務省「国勢調査」
2015年から2040年までは社人研「日本の地域別将来推計人口（2013年3月推計）」
2045年以降は社人研「日本の地域別将来推計人口」に準拠し推計

年齢3区分別人口の推移（図表2）



出典：2010年は総務省「国勢調査」
2060年は社人研「日本の地域別将来推計人口」に準拠し推計

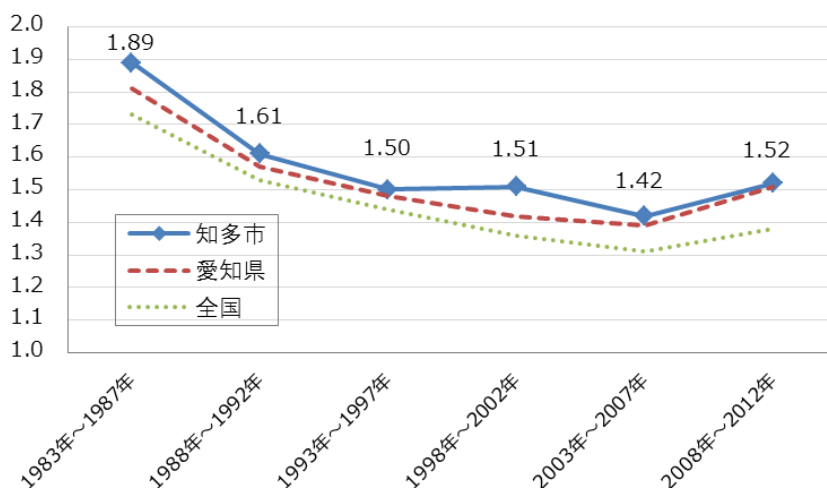


¹中位推計…社人研「日本の将来推計人口（2012年1月推計）」では、出生、死亡それぞれについて、高位、中位、低位の3通りの仮定をおいた複数の推計が行われており、そのうち出生についても死亡についても中位の仮定を用いた推計

また、市の合計特殊出生率（ベイズ推定値）²は、人口を維持するための水準である人口置換水準³2.07 を大きく下回り、1.52（2008年～2012年）となっています。（図表3）

若干回復はしているものの、依然として低い水準であり、愛知県内においては、大都市1市、都市37市、14町、2村の全54団体中35番目（図表4）、都市37市中では25番目となっています。

合計特殊出生率の推移（図表3）



出典：厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計」



各市町村合計特殊出生率（出生率上位順）（図表4）

1	大治町	1.84	12	大口町	1.72	21	扶桑町	1.62	33	東栄町	1.54	45	犬山市	1.41
2	東海市	1.82	13	日進市	1.69	21	阿久比町	1.62	35	一宮市	1.52	45	新城市	1.41
3	みよし市	1.81	14	東郷町	1.67	25	豊橋市	1.59	35	知多市	1.52	45	尾張旭市	1.41
4	高浜市	1.80	15	田原市	1.66	25	春日井市	1.59	37	豊根村	1.51	48	稲沢市	1.40
5	知立市	1.79	16	北名古屋市	1.65	25	岩倉市	1.59	38	飛島村	1.48	49	常滑市	1.39
6	刈谷市	1.77	16	武豊町	1.65	28	西尾市	1.58	39	蟹江町	1.45	50	津島市	1.38
6	幸田町	1.77	18	岡崎市	1.63	29	弥富市	1.56	39	東浦町	1.45	51	名古屋市	1.35
8	設楽町	1.76	18	碧南市	1.63	30	小牧市	1.55	41	蒲郡市	1.43	52	瀬戸市	1.30
9	安城市	1.75	18	清須市	1.63	30	あま市	1.55	42	江南市	1.42	53	愛西市	1.25
10	豊山町	1.74	21	豊川市	1.62	30	長久手市	1.55	42	豊明市	1.42	54	美浜町	1.22
11	大府市	1.73	21	豊田市	1.62	33	半田市	1.54	42	南知多町	1.42			

出典：厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計」（2008～2012年）

²合計特殊出生率（ベイズ推定値）…合計特殊出生率は、その年次の15歳～49歳の女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が一生の間に生むとしたときの子どもの数に相当。ベイズ推定値は、小地域間の比較や経年的な動向をみる場合、特に出生数（標本数）が少ない場合には、数値が大幅に上下することから、当該市区町村を含むより広い地域の出生の状況を情報として活用し、これと各市区町村固有の出生数の観測データとを総合化して当該市区町村の合計特殊出生率を推定するもの

³人口置換水準…現在の死亡の水準を前提としたとき、人口が長期的に増えも減りもせず一定となる出生の水準。（合計特殊出生率）日本においては2.07となっている。（社人研「人口統計資料集（2015年）」）

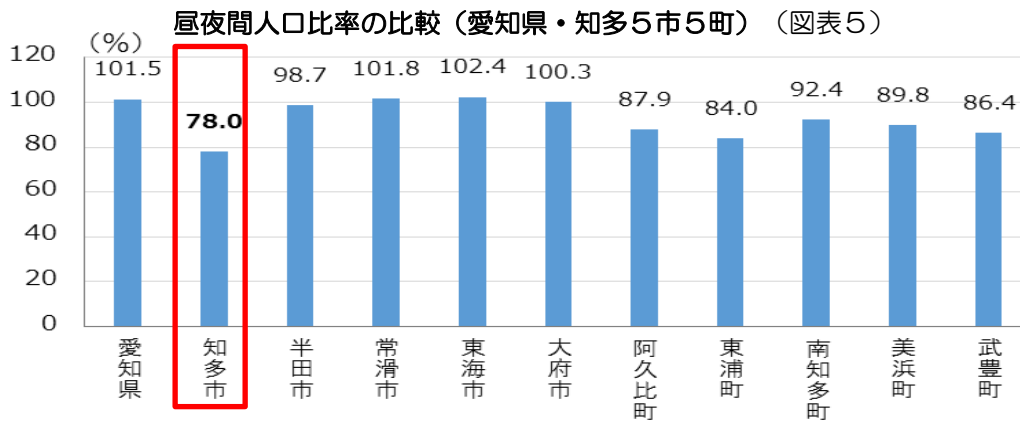
(2) 昼夜間人口

昼夜間人口比率については、78.0%と愛知県及び知多5市5町と比べ、最も低い値となっています。（図表5）

また、通勤・通学先をみると市内の通勤・通学率が約34.1%であるのに対し、県内他市町村への通勤・通学率は約60.5%となっており、中でも名古屋市と東海市の占める割合が特に高く（図表6）、これらの都市のベッドタウンとなっていることがわかります。



中部中学校から見た市街地



知多市からの主な通勤・通学先（15歳以上）（図表6）

県内・外	市（区）町、県	実数	割合
知多市内		15,822人	34.1%
愛知県内		28,039人	60.5%
	名古屋市	8,876人	19.1%
	中区	1,645人	3.5%
	南区	1,350人	2.9%
	港区	1,275人	2.7%
	中村区	984人	2.1%
	熱田区	620人	1.3%
	緑区	563人	1.2%
	瑞穂区	375人	0.8%
	昭和区	361人	0.8%
	東区	358人	0.8%
	千種区	317人	0.7%
	中川区	282人	0.6%
	西区	244人	0.5%
	天白区	225人	0.5%
	東海市	7,841人	16.9%
	常滑市	3,008人	6.5%
	半田市	2,006人	4.3%
	大府市	1,191人	2.6%
	阿久比町	831人	1.8%
	東浦町	752人	1.6%
	刈谷市	631人	1.4%
	武豊町	280人	0.6%
	豊田市	254人	0.5%
	碧南市	240人	0.5%
愛知県外		400人	0.9%

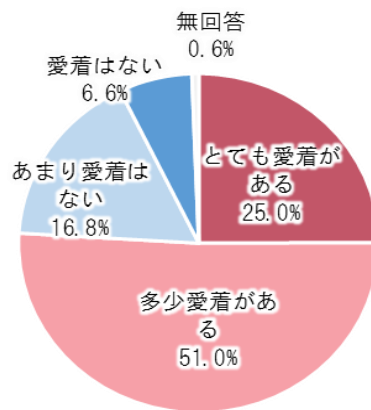
出典：総務省「国勢調査」(2010年)

(3) 市への愛着・暮らしやすさ

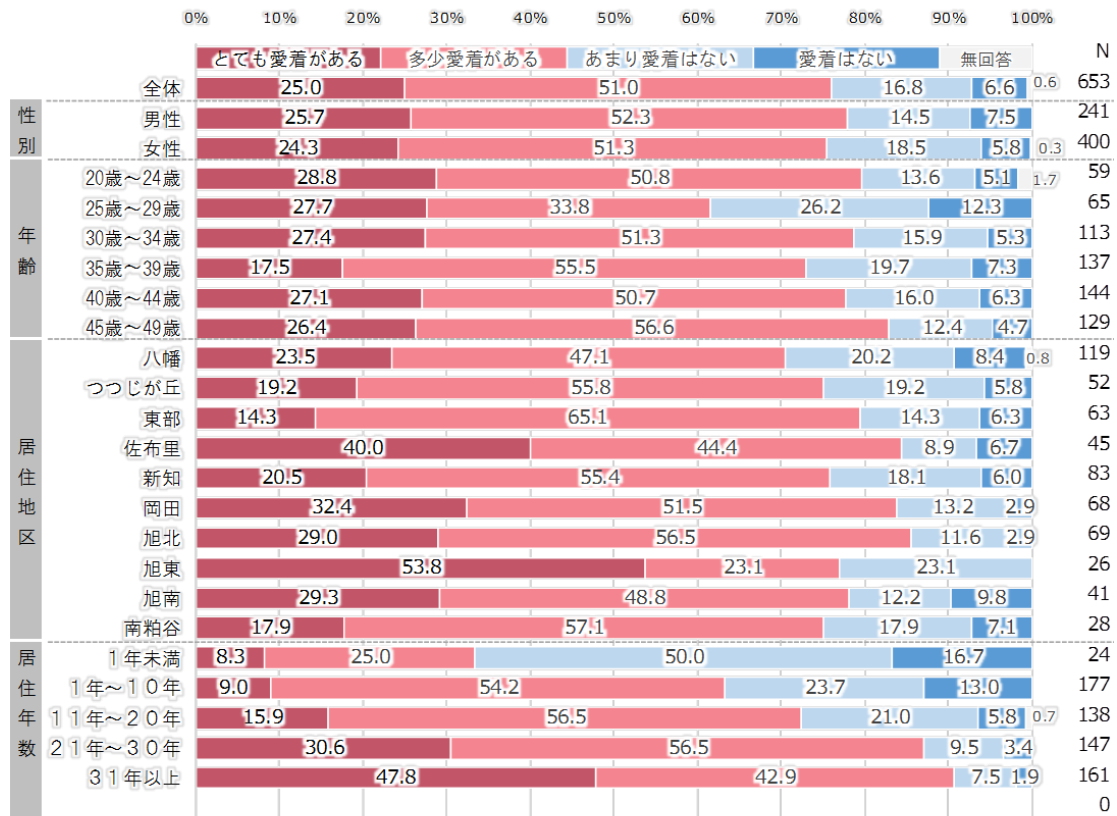
2015（H27）年度に実施した20歳以上49歳以下の市民を対象とした「結婚・子育てに関する意識調査」（以下「住民アンケート」という。）によると、7割以上の方が市に「とても愛着がある」又は「多少愛着がある」と回答しています。（図表7）

居住年数別にみると、市の居住年数が長いほど、市に愛着を感じている方が多くなっています。（図表8）

市への愛着（図表7）



市への愛着（性別・年齢・居住地区・居住年数別）（図表8）



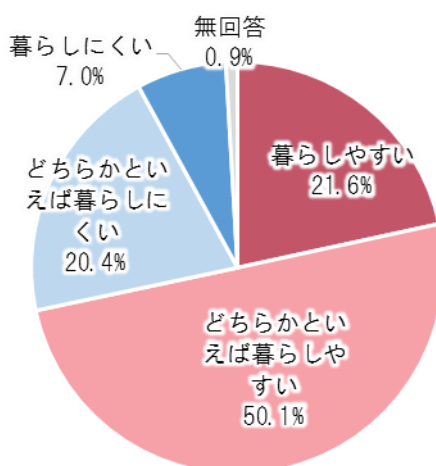
出典：知多市「結婚・子育てに関する意識調査」（2015.7.30～8.21）

また、住民アンケートによると、7割以上の方が「暮らしやすい」又は「どちらかといえば暮らしやすい」と回答しています。（図表9）

暮らしやすいと感じる理由としては、「通勤通学等交通上の利便性」が最も多く、次いで「買い物等商業的な利便性」「親等との距離」「自然環境」が多くなっています。

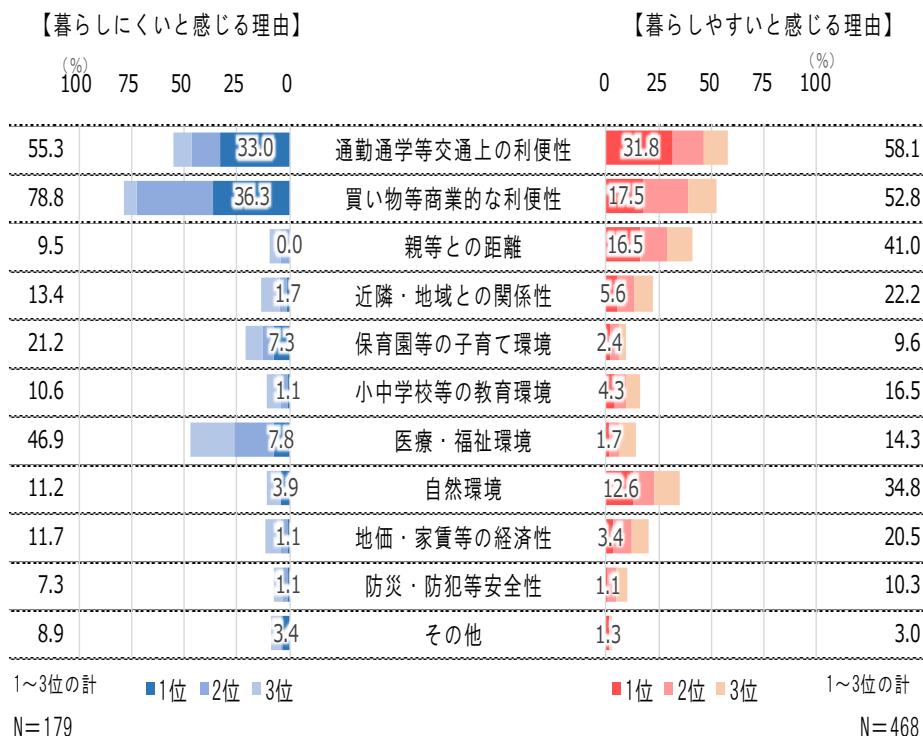
一方、暮らしにくいと感じる理由は「買い物等商業的な利便性」が最も多く、次いで、「通勤通学等交通上の利便性」「医療・福祉環境」が多くなっています。（図表10）

暮らしやすさ（図表9）



N=653

暮らしやすい・暮らしにくい理由（図表10）



出典：知多市「結婚・子育てに関する意識調査」（2015.7.30～8.21）

3 シティプロモーション検討委員会での検討内容

市では2015（H27）年度に知多市シティプロモーション検討委員会⁴（以下「検討委員会」という。）を組織し、シティプロモーション基本方針の検討を進めました。

(1) 若手職員から見た市のイメージ

最初に検討委員会の委員がそれぞれ抱えている市へのイメージの共有を図りました。良い点としては「大都市や空港へのアクセスの良さ」「新舞子の存在」「自然が多い」「地域の住民が温かい」などが多く挙がり、悪い点としては「イメージ・知名度が低い」「市内に若者が集まれる場所が少ない」「市内の公共交通機関が少ない」などが挙げられました。（下表参照）

検討委員会委員が考える知多市のイメージ	
良い点	悪い点
名古屋からのアクセスが良い（車・電車で約30分）	知名度が低い
中部国際空港からのアクセスが良い（車で約30分、電車で20分）	おしゃれな飲食店が少ない
市内に海水浴場がある（新舞子マリパーク）	若者が集まれる娯楽施設がない
新舞子の景観（新舞子の夕日、風車、新舞子ファインブリッジ）	主要駅周辺に飲食店や量販店が少なく、活気がない
都市と自然が程よく共生している	市内の公共交通機関が少なく、車がないと不便
四季を通じて市全体でPRできる観光資源がある（春＝春祭り、旭公園の桜。夏＝新舞子。秋＝朝倉の梯子獅子、日長神社の紅葉。冬＝尾張万歳、佐布里池梅林）	自然の資源を生かした観光が多いため、繁忙期が限定され、通年で人が集う場所が少ない
自然が豊か	
地域の住民が温かい	
コミュニティ活動が活発であり、地域の連携が強い	
犯罪の発生率が低い	



検討委員会の様子

⁴知多市シティプロモーション検討委員会…庁内外の35歳以下の職員を「男・女」「未婚・既婚」「市内在住・市外在住」等の区分により、各部からバランスよく1人ずつ選出した11人の委員等で組織された検討部会

(2) SWOT 分析を活用した考察

次に市の内的要因として「強み (Strengths)」・「弱み (Weaknesses)」と外的要因として「好機 (Opportunities)」・「脅威 (Threats)」を洗い出し、現状を整理する SWOT 分析⁵の一部手法を活用し、検討委員会の委員から4つの要因について意見を求めました。その結果は、下表のとおりです。

S (現在の市の強み)	W (現在の市の弱み)
<ul style="list-style-type: none"> ・都市部や空港へのアクセスが良い ・自然が多い ・日常生活を送る上で大きな支障がない ・県内一の梅林や新舞子マリパークなどの観光資源がある ・市内のコミュニティが活発である ・名古屋のベッドタウン ・犯罪が少ない ・名古屋から一番近い海水浴場がある ・全国的に珍しいウイスキー蒸溜所がある ・花火が打ち上がる 	<ul style="list-style-type: none"> ・若者が集まるところが少ない ・知多市の印象が薄い ・現在転出超過となっている ・飲食店・土産店などが少ない ・市街地が分散している ・市内の公共交通機関が少ない ・駅前に活気がない ・高校が少ない。大学がない ・市民の高齢化
O (現在の市の好機)	T (現在の市の脅威)
<ul style="list-style-type: none"> ・県内に大学が多い ・約 10 年後のリニア開通 ・東海市の発展 (太田川駅前商業施設、日本福祉大学東海キャンパス) ・常滑市の発展 (大型商業施設の存在、中部国際空港) ・中部国際空港の利用者 ・国の地方創生に係る補助金 ・情報収集・発信の多様化 ・市民協働の考え方の広がり 	<ul style="list-style-type: none"> ・他市町の駅前などの再開発 ・車離れ ・似たような規模の自治体が多い ・近隣市の魅力やPR ・南海トラフ地震 (海が近い、市内の木造住宅密集地域) ・国内人口の減少

(検討委員会委員案から一部を抜粋)

⁵SWOT 分析…外部環境や内部環境を4つのカテゴリーで要因分析し、事業環境変化に対応した経営資源の最適活用を図る経営戦略策定方法の1つ

また、この分析の中から、「現在の市の強み」と「現在の市の好機」に着目し、掛け合わせることによって、市が今後、強みを生かして好機を勝ち取るために力を入れて取り組んでいくべきものについて考察しました。

PR（強化）していく市の強み（例）		活用していく市を取り巻く好機（例）
<ul style="list-style-type: none">・大都市や空港からのアクセスの良さ・市内の自然環境の良さ・活発なコミュニティ・住環境の良さ	×	<ul style="list-style-type: none">・近隣市町の商業施設の発展・大都市の住民や空港の利用者・多様化する情報発信手段



「誰もが住み続けたい、住んでみたくなるまち」への前進

この「強み」と「好機」を掛け合わせることによって、より効果的に市のシティプロモーションを行っていくことができます。

しかし、「強み」や「好機」は随時変化していくものであるため、市職員は常に市民の声や近隣市町の施策、国・県の動向や世間の流行にアンテナを張り、シティプロモーションにつながる取組の発見に努めなければなりません。

4 シティプロモーションの必要性・方向性

これまでの各種データや分析から市のシティプロモーションの必要性・方向性をまとめます。

(1) 総人口の推移について

今後、市は人口が減少し続け、高齢化がさらに進行していきます。

また、2008（H20）年から2012（H24）年の市の合計特殊出生率は1.52で、若干回復はしているものの、依然として低い水準であります。

(2) 昼夜間人口について

市はこれまで名古屋市や東海市などのベッドタウンとして成長を続けてきました。現状の昼夜間人口においてもその傾向は顕著に見られます。理由としては、市内に「大学」がないこと、「高校」や「働く場」が少ないことが挙げられます。このことから、現在、市は、家を構え、体を休め、リラックスできる場所であると考えられます。

(3) 市への愛着・暮らしやすさについて

住民アンケートでは、市に長く住めば住むほど愛着度は高まり、市民全体では愛着を持つ市民が7割を超え、市にとって良いイメージを持っている市民が多くいることが分かります。

暮らしやすさについては、「暮らしやすいと感じる理由」と「暮らしにくいと感じる理由」共に「通勤通学等交通上の利便性」「買い物等商業的な利便性」が挙げられます。これらについては、市のPRポイントとして捉えるだけでなく、今後改善していくことによって、さらに暮らしやすいと感じる市民を増加させることにつながれると考えられます。

(4) 検討委員会（若手職員目線）での分析

市の魅力は「大都市や空港からのアクセスの良さ」「市内の自然環境の良さ」「コミュニティ等まちづくりに活発な人材の存在」「住環境の良さ」が挙げられ、市を取り巻く好機では「近隣市町の商業施設の発展」「大都市の住民や空港の利用者」「多様化する情報発信手段」が考えられます。

市を取り巻く好機を利用することで、市の魅力をさらに強固なものとして発信していくことが、効果的なシティプロモーションにつながると考えられます。

5 シティプロモーションの基本方針

これまでの検討を基に、シティプロモーションのテーマ、取組概要などを以下のとおり設定しました。

(1) シティプロモーションのテーマ（シティプロモーションの目指す姿）

「誰もが住み続けたい、住んでみたくなるまち」

これまでの検討の中で、市が取り組んでいくシティプロモーションの内容としては、「住みやすい知多市」「緑と海に囲まれたまち」という住環境や景観の良さのイメージを前面に出しながら、これまでの「ベッドタウン」としての特性を生かして、市の持つ魅力であるアクセスの良さ、豊富な自然環境、犯罪の少なさ、市民のまちづくりの意識の高さなど市の強みに結び付けて、魅力をPRすることによって、他の自治体と差別化を図ることが、市のシティプロモーションの目指すべき姿であるとの結論になりました。

このことを踏まえ、検討委員会において、「誰もが住み続けたい、住んでみたくなるまち」をシティプロモーションのテーマに設定しました。

(2) シティプロモーションの取組の概要

目標：知多市のファンの増加

シティプロモーションの目標は、老若男女問わず「知多市のことを好きになる人（知多市のファン）」を増加させることです。あらゆる面から市の魅力を発信し、市民をはじめ、市外の方にも市に興味を持ってもらえるよう積極的なプロモーションを行います。

また、知多市のファンとなった方々の口コミ等によるプロモーションも期待されます。

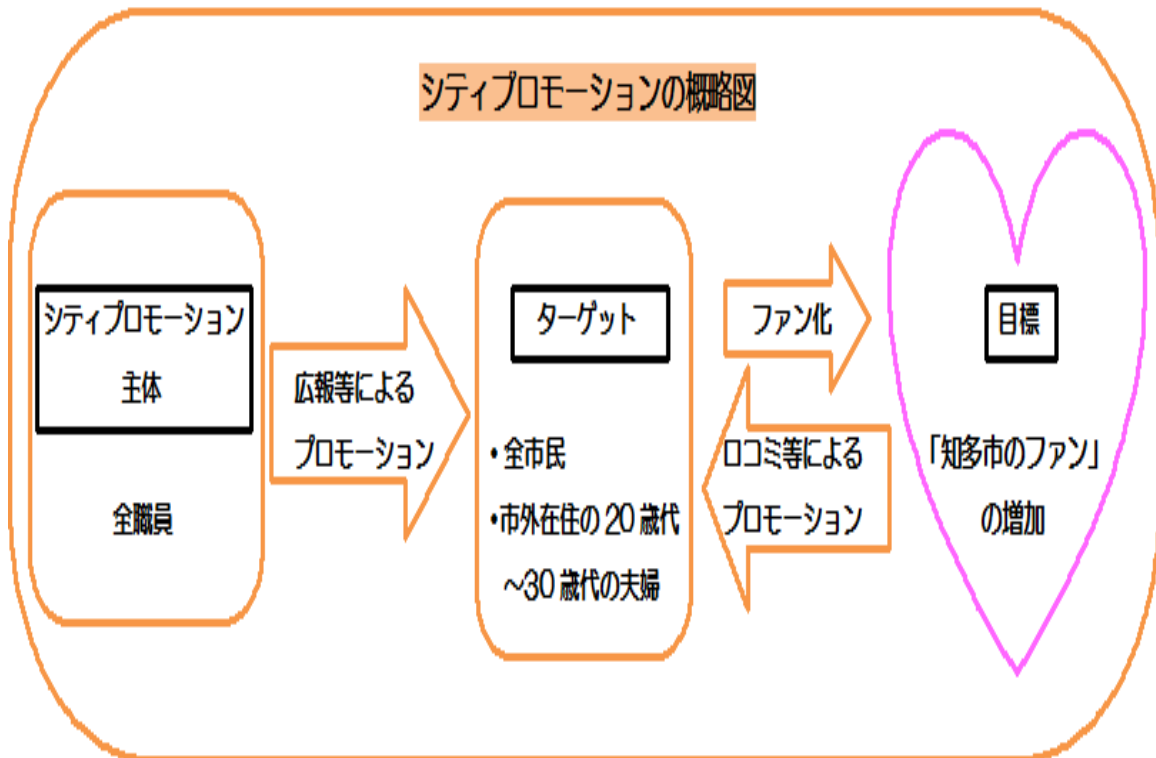
シティプロモーションの主体：全職員

所属部・課、役職等を問わず、市職員全員がシティプロモーション要員であることを自覚し、機会を捉え、積極的に市の魅力を市内外に発信していきます。

ターゲット：全市民と市外在住の20歳代～30歳代の夫婦

シティプロモーションによって市民の郷土への愛着や誇りを育み、市を離れても帰ってくるUターンや定住の促進につなげるため、また市民が知多市のファンとなり、さらに市の宣伝役となっていただくため、全市民に対して積極的なプロモーションを展開していきます。

また、20歳代～30歳代の夫婦は他の年代に比べ、出産によって人口の自然増に寄与する可能性が高く、安定した住環境の中で子どもを育てるために、1つの地域に長く住み続けることが予想されます。さらに、市内での労働人口の増加や消費等の担い手となることから、市外在住の20歳代～30歳代の夫婦もシティプロモーションのターゲットとします。



(3) シティプロモーションにおける役割

○市長

市のトップとしてシティプロモーションの先頭に立ち、トップセールスとして市内外に積極的なプロモーションを展開します。

メディアへの情報発信、企業や団体等の訪問及び来庁の際やさまざまなイベントへの参加などあらゆる機会を生かし、プロモーションを実施します。

○幹部職員

各々が自身の所管する事業の宣伝部長であることを自覚し、あらゆる機会に市の魅力を市内外にPRしていきます。また、シティプロモーションのテーマを常に意識し、積極的にシティプロモーションにつながる企画や施策を進めていきます。

○各職員

職員一人ひとりが、シティプロモーションのテーマを常に意識し、さまざまな業務を進めていきます。また、市民と一番距離が近いいため、市民に向けたシティプロモーションを常に意識しつつ、幅広い情報にアンテナを張り、シティプロモーションにつながる取組の発見に努めます。

(4) 今後のシティプロモーションの取組

シティプロモーションは、一度方針を定めたら終わりではなく、その効果を確認しながらPR方法や実施内容などを検討しなければならないため、長期的な計画を示すことが難しい取組です。そのため、市全体のシティプロモーションを取りまとめる秘書広報課は、今後も検討委員会において、市民の声や近隣市町の施策、国・県の動向や世間の流行等を考慮し、費用対効果を意識しながら、オリジナリティがあふれ、インパクトの強いシティプロモーション戦略を検討し、実践します。

知多市シティプロモーション検討委員会名簿（27年度）

役 職	職 名 等	氏 名
会長	企画部秘書広報課長	彦坂 邦之
副会長	企画部秘書広報課副課長	竹内 裕之
委員	総務部防災危機管理課主事	吉田 直広
	企画部企画情報課主事	森 智史
	市民生活部市民協働課書記	廣瀬 晶子
	健康福祉部福祉課主事	有田 てるみ
	子ども未来部幼児保育課書記	青木 久実
	環境経済部商工振興課主事	畠 大喜
	都市整備部都市計画課主事	松岡 浩平
	水道部水道課主事	久保田 淳
	消防本部庶務課主事	西 伸康
	教育部学校教育課主事	大西 悠
	議会事務局議事課書記	東 秀征
事務局	企画部秘書広報課主事	小嶋 裕介
	企画部秘書広報課書記	新帯 文美

知多市シティプロモーション基本方針

平成28年3月

知多市企画部秘書広報課

住 所 〒478-8601 愛知県知多市緑町1番地

電 話 0562-33-3151 (代表)

FAX 0562-33-8297

E-mail kouhou@city.chita.lg.jp